

## 第24回教育委員会（臨）

開会日時 平成30年 11月 30日（金） 午前 10時45分  
閉会日時 午前 11時40分  
開会場所 西台中学校体育館

### 出席者

教 育 長	中 川 修 一
委 員	高 野 佐 紀 子
委 員	青 木 義 男
委 員	松 澤 智 昭

### 出席事務局職員

事務局次長	矢 嶋 吉 雄	地域教育力担当部長	松 田 玲 子
教育総務課長	木 曾 博	学務課長	三 浦 康 之
生涯学習課長	水 野 博 史	指導室長	門 野 吉 保
教育支援センター所長	新 井 陽 子	新しい学校づくり課長	佐 藤 隆 行
学校配置調整担当課長	大 森 恒 二	中央図書館長	大 橋 薫

### 署名委員

教育長

委 員

午前 10時 45分 開会

教 育 長 本日は、3名の委員の出席を得ましたので、委員会は成立いたしました。

それでは、ただいまから平成30年第24回の教育委員会臨時会を開催いたします。今回は、ここ西台中学校の体育館をお借りして、身近な教育委員会として会議を開催いたします。

板橋区教育委員会では、住民に対して、開かれた教育行政を推進する観点から、区民の皆様が身近に感じられる教育委員会の実現に向けて、様々な取組を行っているところでございます。

本年5月には、その取組の一環として、板橋区役所本庁舎南館にございます教育支援センター研修室におきまして、日中にお時間を取ることが難しい保護者に向け、開催時間を午後6時30分からに設定した会を催しましたが、今回は、地域の皆様や保護者、学校の関係者が傍聴しやすい学校において開催することにいたしました。

教育委員会とは、法律に基づき、行政委員会の1つとして区長から独立した執行機関として設置され、教育長と教育委員4名で構成されております。

申し遅れましたが、私が教育長の中川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、委員の紹介をいたします。

高野教育長職務代理者でございます。

高 野 委 員 高野です。よろしくお願いいたします。

教 育 長 青木教育委員でございます。

青 木 委 員 青木です。よろしくお願いいたします。

教 育 長 松澤教育委員でございます。

松 澤 委 員 松澤です。よろしくお願いいたします。

教 育 長 以上のメンバーに、本日欠席の上野委員を加え、定期的に会議を開催し、教育行政の運営に関する基本的な方針や重要な事項につきまして、審議、決定しております。ほぼ月に2回のペースで行っております。

さて、教育委員会では、学校その他の教育機関、図書館、生涯学習センターといったものの管理、そして学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱い、そして教育職員の身分の取扱い、さらには社会教育その他教育、学術及び文化に関する事務を行っております。

本日の会議では、文部科学省の学力・学習状況調査の結果から見える子どもの姿を報告事項とし、意見交換を行っていきたいと思います。

それでは、本日の会議に出席する区の職員をご紹介します。

矢嶋次長、松田地域教育力担当部長、木曾教育総務課長、三浦学務課長、水野生涯学習課長、門野指導室長、新井教育支援センター所長、佐藤新しい学校づくり課長、大森学校配置調整担当課長、大橋中央図書館長、以上、10名でございます。

本日の議事録署名委員は、会議規則第29条により、高野委員にお願いいたします。

また、本日は、大変多くの方に傍聴にお越しいただいておりますが、会議規則第30条により許可いたしましたので、お知らせいたします。

#### ○報告事項

##### 1. 学力調査の結果から見える子どもの姿

(指導室)

教 育 長     それでは、報告事項を聴取します。報告1「学力調査の結果から見える子どもの姿」について、指導室長から報告願います。

指 導 室 長     指導室長の門野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

「学力調査の結果から見える」というように題名には出しましたが、それほど大げさなものではなく、実際にどうなっているのかというところをぜひご理解いただきたいという趣旨でございます。

まず、資料の1ページ目の下段からが、今年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の結果です。

調査の対象となっているのは、小学校6年生と中学校3年生です。

教科は、国語と、小学校は算数、中学校は数学です。実際には理科も今年度を実施しておりますが、今回の報告からは省いております。

資料の1ページ目の下段、表が4つありますが、左上の表には「国語A」、右上の表には「数学A」と書かれております。

4つの表のうち、上段の2つは、A問題を表しておりますが、A問題というのは、知識に関する問題です。

また、左下の表には「国語B」、右下の表には「数学B」と書かれております。

4つの表のうち、下段の2つは、B問題を表しておりますが、B問題というのは、知識を活用する力がどれくらいあるのかをはかるための問題です。

そのようにして、A問題とB問題の2つに分かれております。

それぞれの表の左側から、27年度、28年度、29年度、そして30年度という表記になっており、過去4年間分のデータを表しております。

それぞれの表には、棒グラフが2本ずつありますが、右側の棒グラフが全国を、左側の棒グラフが東京都をそれぞれ表しております。

ただし、数字の単位から見てもなかなか比較しにくいかと思っておりますので、このグラフは差を表すものになっております。

例えば左上の表では、0の目盛りが左端の上から2つ目にありまして、そこから下に棒グラフが下がっていますが、27年度で見ると、板橋区は左側の棒グラ

フ、東京都と比べて2ポイント以上点数が低かったということを表しています。  
そして、右側の棒グラフ、全国と比べて0.7ポイントくらい点数が低かった  
ということを表しています。

27年度を見てみると、国語A、国語B、数学A、数学Bのいずれも全国より  
も下にあるということがお分かりいただけるかと思えます。

27年度というのは、中川現教育長が着任された当時のデータとなります。国  
語A、国語B、数学A、数学Bのいずれも全国より下回っていたという状況でし  
た。

これが経年で見えていくと、少しずつですが、右肩に向かって上がっているのが  
お分かりいただけるかと思えます。

左下の表、国語Bのように、全国平均値を大きく上回る教科も出てきました。  
そして東京都の平均値を上回る教科も出てきました。これが4年間の実態です。  
ようやく全国に追いつきはじめ、今はほぼ全国と同じ程度です。

そして、私どもが次の3年間で目指そうとしているのが、23区の平均値に追  
いつくことで、目標を立てて、これから取り組もうとしています。

以上が中学校の状況ですが、資料の2ページ目の上段が小学校の表です。

小学校の方が、それぞれの表の2本並んだ棒グラフの右側、全国平均値をかな  
り大きく上回っている教科が多いということがお分かりいただけるかと思えます。  
これが板橋区の学力の現状でございます。

資料の2ページ目の下段ですが、学力につきまして、学校では様々な取組を行  
っています。

例えば、「めあて」の提示、あるいは振り返りの時間の設定など、いわゆる板  
橋区版の授業スタンダードというものをつくっております。

授業参観等をしていただいたときに、恐らくお気づきいただいたかと思いま  
すが、授業の最初に、「めあて」を提示するというのを、どの授業、どの先生、  
どの時間帯でもやりましょうということを徹底しています。

それに加えて今は、振り返りの時間をきちんと取りましょう、授業の際に何が  
できるようになったのか、自分たちは何を勉強してきたのだろうかということ  
を、自身で振り返ることができる時間をつくらうとしていて、そうした「板橋区  
授業スタンダード」の徹底を行っています。

また、本校のようにICT機器、電子黒板であったり、デジタル教科書であつ  
たり、そうしたものを積極的に活用していきましようとして取り組んでいます。

ICT機器を効果的に活用すると、子どもたちの目の輝きが違うと思えます。  
私も、子どものときは、いわゆる黒板だけの授業でした。今の子どもたちが受け  
ているような授業は全く想像しませんでした。

今のような授業を受けている子どもたちは、目の輝きが全く違うと思えます。

また、タブレットも活用するようになり、ICT機器がかなり身近な存在にな  
っていると思えます。そういうものを本当に身近な存在として、学校では授業の  
中で活用しています。

また、資料の3ページ目の上段ですが、板橋区教育委員会としての取組もあります。

年間で8回以上の土曜授業プランという形で土曜日の授業時数を増やしたり、あるいは保護者や地域の皆様が参加しやすいように、学校で一体何をやっているのか、子どもたちはどのような勉強をしているのかというところを見ていただきやすいように、土曜日に公開授業として設定しています。

ただし、土曜日に限らず、平日でも授業をご覧になりたい方がいらっしゃれば、ぜひ、学校にお申し出ください。平日でも見ていただくことは可能ですので、よろしくをお願いします。

それから、資料の3ページ目の下段ですが、これは保護者や地域の皆様にお力添えをいただいている様々な事業です。学習ボランティアであったり、図書ボランティアであったり、本当に様々なお力添えをいただいていると感じています。

学力向上は単線ではないと思います。これをやれば学力が向上するといった単純なものではないと思います。

様々なお力添えをいただいている、学校では先生方が授業に一生懸命に取り組む、あるいは教育委員会では人を派遣する、授業時数を増やしているというような取組もあります。

当然、保護者や地域の皆様にお力添えをいただいて、活動を充実させている。ゲストティーチャーで来てもらう、専門的なお話をさせていただく、そうしたものの総合的な力として学力の結果は出ていると思っていますので、引き続き、ご協力いただけるとありがたいと思っています。

学力・学習状況調査は、実は単に学力を調査しているだけではありません。

そのほか、子どもたちのいわゆる生活態度、あるいは習慣、ものの考え方など、学力とは直接関係のない、いわゆる非認知スキルと言われているものについても調査をしています。

今日は、いくつか、この非認知スキルの中で、子どもの学力と相関関係が強くあるものについてご紹介したいと思っています。

まず、前提として資料の4ページ目の上段に書かれているのですが、この相関関係については、小学生の方が中学生よりも強く出てきます。また、中学生の方が高校生よりも強く出てきます。

つまり、早い段階で学習習慣や生活習慣などが身に付いている方が、その後の学力向上が大きく期待できるということです。

家庭の経済的な背景などにかかわらず、この非認知スキルを高めていけば、学力向上に結び付くのだということが分かってきています。ですから、なおさら様々な意味で、非認知スキルというものが注目されているところです。

これは、主には保護者の働きかけがかかわってくるようです。

非認知スキルを向上させるために、どのような保護者の働きかけが有効なのか

というと、子どもの良いところをほめ、自信を持たせる。子どもに努力することの大切さを教える。努力しなさいではなくて、努力の大切さを伝える。子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝える。やり抜きなさい、頑張りなさいではなくて、大切さを伝える。そこがポイントだということです。そして、毎日、子どもに朝食を食べさせる。あるいは、地域社会などでのボランティア活動に参加するよう子どもに促す。

そして、実際の家庭環境と学力の関係についてです。

資料の5ページ目の上段ですが、保護者の働きかけということで、学校の出来事、友達のこと、勉強や成績のこと、こうしたことの出来事やニュースを決めている。それからテレビ・ビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間などのルールを決めている。それから、先ほど出てきた努力することや最後までやり抜くことの大切さを伝えるといったところです。

また、保護者の教育意識や諸活動への参加ということで、将来、子どもに留学をしてほしいと思っている。自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。地域や社会に貢献するなど、人の役に立つ人間になることを重視している。そして、保護者自身が、PTA活動や保護者会などへ積極的に参加している。

ここに出てきているのは、全て学力と相関関係が強いと言われていることです。たくさんの項目がありまして、その中で抜粋したものです。

それでは、実際に板橋区の状況はどうかというお話です。

資料の6ページ目の上段ですが、「自分には、よいところがあるか」という質問がありまして、これは中学生のデータです。

このデータは、全国と東京都と板橋区を比較しています。どれくらいの子どもたちが、「自分には、よいところがある」と肯定的に思っていると思いますか。

板橋区では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計で、83%の子どもたちが自分のことを肯定的に思っているということが分かります。

これから、8つほど紹介したいと思います。

はじめに、「自分には、よいところがあるか」という質問です。

東京都や全国に比べても、板橋区の子どもたちは自己肯定感が高いという結果が出ています。

ただし、国際比較すると、日本の子どもたちは自己肯定感が低いと言われています。

それでも、板橋区の子どもたちは、東京都や全国に比べても、自己肯定感が高い方であるをご理解いただきたいと思います。

次に「学校の規則を守っているか」という質問です。

中学校3年生、95.7%の子どもたちが肯定的に捉えています。

何かのテレビで観た内容ですが、規則を守れる子どもは科学者に向いているということでした。規則を守れるということは、手順を1つずつ踏んでいくことだということで、これは小説かテレビの内容でしたが、カップラーメンをつくるとき

に、熱湯を注ぎ、3分間待ってくださいと説明が書いてあります。これが、入社試験のとき、控室にお湯とカップラーメンだけが置いてあります。本番の面接の前、控室での行動分析が実は面接だったということです。

要するに、カップラーメンは熱湯を注ぎ、3分間待ってくださいと書いてあるので、ポットのお湯を再沸騰させるのか、させないのかというところを見ている。ポットの中のお湯の温度が90度になっているのです。つまり、熱湯ではないのです。これが何かの研究所に入るための試験であったのを見たことがありまして、規則を守るということでは、そのようなところもあるのではないかと思います。

資料の7ページ目の上段ですが、こちらは実際に学校の規則を守っている子どもたちについての調査結果です。

回答の1番は「当てはまる」、2番は「どちらかという当てはまる」、3番は「どちらかという当てはまらない」、4番は「当てはまらない」となっております。

1番の規則を守るという子どもたちは、国語Aが77.4%。国語Bが64.6%となっています。規則を守る子どもたちの方が、明らかに点数が高い結果です。特に今回のこの試験では、理科において大きな差が見られます。

「規則を守っていない」と素直に回答しているのかもしれませんが、「規則を守っている」という子どもと、「規則を守っていない」という子どもの間では、25.5ポイントも差が出てくる。これほどまでに違うという結果になります。

理科以外も同様の結果となっていますので、ご覧いただければと思います。

次に、「朝食を毎日食べているか」という質問です。

板橋区では約9割の子どもたちが食べています。

残り約1割の子どもたち、40人のクラスであれば、4人の子どもたちが食べていないという結果です。東京都や全国に比べて、割合が高いから良いということではなく、朝食を毎日食べている割合が100%でなくて良いのか、心配なところではあります。

資料の8ページ目の上段ですが、こちらでも朝食を食べているのか、食べていないのかということと試験の結果を比較してください。

こちらでは数学Bが一番、差が大きく出ていました。16ポイント違うという結果です。

平均正答率が約50%というところでの16ポイントの差ですから、かなり大きな差が出ていると言えます。

次に、「自分で計画を立てて勉強しているか」という質問です。

こちらでも、板橋区の子どもたちは、全国や東京都よりも高いのですが、53.7%くらいしかないという結果です。これから生涯学習であったり、世の中に出て自分で働いて自己研鑽することであったり、様々なところで自学自習していく、あるいは物事に取り組んでいくということからいいますと、とても大事な力ではないか、自分で計画を立てて取り組んでいくという姿勢、やはりこれはきちんと育てていく必要があるのではないかと強く感じる項目ですし、課題を感じる項目でもありました。

次に、「家で宿題をしているか」という質問です。

これは92.1%とかなり高い結果です。残りの子どもたちは、中学校3年生ということで、塾があったり、学校の休み時間などでやっている子どもたちもいるかと思いますが、実はこの、「家で宿題をしている」という項目が、今回、一番ポイントの差が大きく出ています。

様々な非認知スキルの項目があるのですが、一番大きな26ポイントという差が出たのは、この項目です。

それでは、平日、子どもたちは家でどれくらい勉強しているのでしょうか。

勉強時間が最も多い子どもで3時間以上というような子どももいますが、割合として最も多いのが、1～2時間、60分から120分やっている子どもたちという結果です。そして、60分以上やっている子どもたちの割合を合計しますと、72%になります。家で、平日にこの時間数です。子どもたちは本当に一生懸命頑張っています。

次に、「地域や社会の出来事への関心」という質問です。

これは63.6%ということで、それほど高くはない結果です。

次に、「ボランティア活動への参加」という質問です。

今日、西台中学校に来たら学校の周りで子どもたちが清掃活動を楽しそうにやっている姿がとても印象的でした。

ボランティア活動への参加は48.6%ということで、少し少ないのではないかという気はします。全国や東京都に比べても、「参加している」と答えている子どもたちの割合は低い結果で、5割に届かない状況でした。

以上が、全国学力・学習状況調査の結果です。

次は、板橋区の課題になっている部分ということで、これはやはり不登校です。不登校の実態については、昨年度の数字ですが、小学校で173人、中学校で372人の不登校の子どもたちがいます。

ただし、板橋区内で小学生は約2万人、中学生は約1万人います。ですから、単にこの数字が多いのか少ないのかというのは分かりにくいと思いますので、東京都のデータと比較したものがあります。

資料の12ページ目の上段ですが、一番上のグラフが板橋区の中学生、その下のグラフが東京都の中学生の不登校の出現率となっております。昨年度の板橋区の中学生の不登校の出現率は4.11%、約4%です。

下が小学生のグラフで、板橋区は0.77%ということで、40人クラスで考えると、1クラスに1人いるかいないかというところではあります。

中学生については約4%ということで、40人クラスで考えると、1クラスに1人いてもおかしくないという数字です。これが板橋区の現状でございます。

そして、もう1つご理解いただきたいこととして、前回の身近な教育委員会のでも取り扱いましたが、教職員の働き方改革というものがございます。

先生方の勤務時間は、どうなっているのかということをご理解いただきたい



いということでお話ししますが、教員もちろん労働者ですから、1日当たり7時間45分、1週間当たり38時間45分という決まりがあります。

一般的な勤務時間としては、午前8時15分から午後4時45分までに設定している学校が多いです。これは学校によって違います。8時10分から設定している学校もあります。

一日の流れがどのようになっているのかというのが、資料の13ページ目の上段にあります。

8時15分から勤務といいつつも、多くの教員は7時くらいから来ています。特に中学校ですと、部活の朝練をやっている先生などはかなり早い時間に来ています。子どもたちが7時半に登校するのであれば、その1時間くらい前には来ています。

そして、終わりについても、今の時期は暗くなるのも早いので、部活が5時半、6時くらいで終わるかもしれませんが、そのまま終わりというわけではなく、そこから次の日の準備をするというのが現状としてあります。

同じページの下段の表が、週当たりの在校時間が60時間を超えている教員の割合です。

週当たり60時間という時間ですが、先ほどお話ししましたとおり、教員は本来、週当たり38時間45分の勤務時間です。それよりも20時間以上働いている先生たちの割合ということになります。

調査した時期が違いますので、板橋区と東京都を単純に比べることはできませんが、板橋区の中学校で58%、小学校でも42%の先生方が週60時間以上働いている現状があるということは、ぜひご理解いただきたいと思っています。

以上のような、良い面、悪い面、できること、できないことを含めて、それでもやはり21世紀、国際社会の中で子どもたちに力を付けていく。そのためには何をしていったら良いのかということ、せつかくの機会ですので、皆様と考えられたら良いのではないかと思います。

報告は以上です。ありがとうございました。

教 育 長      ありがとうございました。

それでは、各委員から、所感、質疑等ございましたら、ご発言いただければと思います。

高 野 委 員      平成27年度から学力が向上してきているというお話がありまして、板橋区授業スタンダードについてのご説明がありましたが、授業を見ていると、先生方が授業のめあてを黒板にしっかりと書いて、この1時間でどのようなことを学んでいくのかということ子どもたちに分かりやすく説明しているという点がとても大きいと思います。

最初のころは、学校によって、それがきちんとできているところ、できていないところがあったのですが、年度を重ねるごとに徹底されて、授業見学に途中から入っていても、今どのようなことを学習しているのかが分かるようになりま

した。

子どもたちも授業に向かうとき、どのような目的で授業を受けているのかということが明確になると意欲も湧きますし、最後に振り返りをするすることで、自分が1時間、何を学んできたのかということをもう一度確かめることができます。

非認知スキルの説明の中で、指導室長が、努力することや、やり抜くことが大切だと伝えることというようにおっしゃっていたのですが、自分の子育てなどを振り返ってみると、努力しなさい、やりなさいというような形で終わっていて、子どもたちに、なぜやらなければいけないのか、なぜその習慣を続けなければいけないのかというところをもっと丁寧に説明してあげるべきだったと反省しています。

家庭の中でも、子どもたちに将来、自分がどのような大人、どのような人間になりたいのかという目標などを一緒に考えて、そのためにどのようなことをしたら良いのか、そこを一緒に考えてあげることが大切なのではないかと、お話を伺っていて感じました。

教 育 長      ありがとうございます。  
                  青木委員、いかがでしょうか。

青 木 委 員    非認知スキルのお話を伺ったのですが、ご紹介があったようにICT機器を使うことにより、合理化というものが図られるようになりました。

例えば、図形の授業で黒板に図を描くことなどに一生懸命に時間を使っていたことが、ICT機器を使うことで瞬時に図を表示できるというようなところです。

この次には、ICT機器を活用して、どう授業を面白くするかということが課題になってくると思います。

今、盛んに言われていることは、子どもたちにどうやって論理的な思考を身に付けさせるかという中で、まず勉強の楽しさを教えるということがとても重要になってきます。

例えばICT機器を使うことで、分かりやすく言うと、ゲーム感覚のような感じで勉強に対して取り組むことができる。興味を持って取り組めるような形にだんだんとなってきます。ゲームをクリアするというようなイメージでしょうか。

一つ一つ達成していくことで、達成感と満足感が得られるということが子どもたちにとって非常に重要だということです。

興味・関心はそこから始まるというところで、興味・関心が身に付いてしまえば、あとは習慣付けることができます。そして、徐々に自分のスキルも上がり、成績も上がるという形で結果が見えてくるとますます良くなっていきます。

この正のスパイラルというものをつくり出すということが非常に重要で、一人一人の子どもたちがこれさえ身に付ければ、もう自然に自分たちで勉強していくという話になってきます。

こうしたやり方がやはり非常に重要だということ、これは先生方ももちろん勉強しようとしている最中だと思います。こうした授業のシナリオづくり、インス

トラクショナルデザインという言い方をしております。

ですから、順番としては、はじめに子どもたちのいわゆるやる気スイッチをどう入れるのかということですが、これは子どもたち個々に違うので、その子どもの個性を見極めながらやるというところが非常に難しいのですが、それも踏まえて、学校の先生たちは一人一人の子どもたちに向かっていることと思います。

大事なことは、先ほどの報告にもあったとおりなのですが、家庭で保護者がサポートしてあげるといこと、これが実は一番効果が大きいと思ってください。

できたら本当にできたとほめてあげることが、子どもたちに達成感を与える引き金になることに間違いはないと思いますが、ここがやはり大きく違ってくるのではないかと思いました。

また、ご報告にあった内容で、社会貢献、ボランティアもそうですが、地域や社会に貢献する、人の役に立つ人間になることを重視しているということは非常に大事で、私も大学で学生の話を知ると、学生たちの多くが「将来、社会で役に立つ人間になりたい」と言います。ほとんど全ての学生がそう言っています。

ですから、やはりそうしたところが大事なポイントで、子どもたちから育てあげるといことが重要なのではないかということ、自己肯定感をどのように育てていくのかという流れで、そうしたところにつなげていくことが大事なのではないかということ、あらためて思いました。ありがとうございます。

教 育 長      ありがとうございます。

松澤委員、いかがでしょうか。

松 澤 委 員      私が教育委員になってから約4年と少したっておりますが、板橋区自体の学力というものは確実に上がっているように、各学校を見て感じております。

それは、特に中学校の校長先生をはじめ、学校単位で子どもたちに、やる気や気持ちを向上させていただくような取組をしているからではないかと思っております。

子どもたちは、できる子どももいれば、できない子どももいて、様々な子どもたちがいる中で、やはりできない子どもには、先ほど指導室長が言ったような、プロセスを踏んでやる気を出していただき、勉強に取り組む時間を1時間ずつでも増やしてもらおうということが大事だと思います。

そして、できる子ども、特に勉強をたくさんしている子どもには、やり過ぎ、オーバーワークにも注意していくことも必要ではないかと思っております。

長い目で見ると、その時点ではとても頑張っていて良いのかもしれませんが、続けていくということは非常に難しいと思うので、一息入れるようなことも必要だと思います。そこで、先ほどのルールを守る、自分で計画を立ててやっていくというところにつながっていくのではないかと思います。

私たち保護者がやっていかなければいけないことは、一生懸命頑張っている子どもを見守って、そして応援してあげることだと思います。

「今できないからだめだ」というようなことを決して言わないで、「これから

できるようになる」というようなことでもって励ましてあげることも、時には大切なことではないかと思えます。

私は、私たち保護者よりも、今の子どもたちの方が、能力が高いと各学校を見て思います。

それは、私たちが中学校、小学校のときよりも色々なものが進化していて、情報量も多いですし、能力も高くなるのは当然だと思うからです。

その中で、そこについていけない子どもたちが、先ほどの不登校というところ、私が一番心配している不登校の問題になってくるのではないかと感じております。

不登校をなぜ心配しているかという、全国の調査や東京都の調査などがあるのですが、高校を卒業するかしらないかで、社会に出た後の離職率の割合は非常に変わってきます。ですから、板橋区の子どもたちには、高校は確実に卒業していただきたいと考えています。

そのためには、小学生や中学生の不登校の問題というものは、やはり解決していかなければいけないと感じております。これは私たち教育委員会のこれからの課題だと思っておりますので、ここにいらっしゃる地域の皆様のご意見をいただきながら、良い施策を考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

教 育 長     ありがとうございます。1周目ということで、それぞれ意見をお聞きしているところですが、少し勘違いをされると困るのは、学力をはかる尺度というものが学力・学習状況調査だけではないというところで、これは全国的に行われている調査ですので、当然のように、学力をはかる1つの大きなアセスメントではあるのですが、このほかにも色々なアセスメントがあるし、はかり方があるのだという中で、3年半くらい前に私が着任したときに、そもそも学校って一体どういうところなのか、学校の役割、あるいは教員の役割、教育委員会の役割は何かと思ったときに、やはり学校の子どもたちが明るく元気に、前向きに過ごせるような居場所であると思えます。

そのためには、やはり学力の定着・向上、そして学力の定着・向上のためには何が大事かという、やはり先生の授業、これを変えない限りは学力の定着・向上ははかれないと思えます。

残念ながら、私が着任した当初に回っていた学校の中には、自分が受けてきたような、「チョーク&トーク」とよく言うのですが、チョークとトークだけの授業というものが散見される中で、授業を変えようというところをお話しさせていただいて、板橋区授業スタンダードや、ICT機器の導入等を進めてきました。

なぜかという、子どもたちが社会に出て働く2030年が1つの大きなターゲットイヤーと言われているのですが、その時代にどのような力が求められてくるのかということを考えてうえて、私たち教育に携わる者、そして保護者も当たっていかないと、自分たちが受けてきた、いわゆる高度経済成長期と言われる大量生産大量消費の時代ではなくて、もうこれからはAIというものがどんどん進化して行って、答えのあるものは全部彼らがやっていく。

そうなったときに、答えのない問いにしっかり自分で考えたり、友達と考えを比べ合いながら、納得する解、あるいは最適な解を見つけていく、そういう力を付けていく必要があるのではないかと考えたときに、やはり大きく授業を変えなくてはいけない。

その主人公となるのは、やはり教員だと思うのですが、先生方も、先ほどの報告の最後に出たように、大変忙しい中なのですが、板橋区には非常に誇れるもの、教育支援センターというものが平成27年4月にオープンしました。これが区役所の中であって、恐らく23区、あるいは全国的にもないような施設ですが、これが大きな鍵になっていると考えています。

教育支援センター所長がおりますので、教員に対してどのような研修をして、授業力を高めているのかというところを、後ほど伺いたいと思っています。

それから、学校はあるものではなくて、つくっていくものだと私は思っています。学校は子どもたち、それから保護者、地域、そして教員がつくっていくものであり、あるものではない。ですから、大事なことは何かといいますと、学校や子どもたちの本音を見たり聞いたりすることです。

そして保護者や地域の方も、「何やっているの、学校」というスタンスではなくて、一緒に参加しながら学校をつくっていくというスタンス、そうしたものを板橋区全体に広げていきたいと思っています。

その意味で、コミュニティ・スクールというものを平成32年、2020年から全校で始めていくのですが、これまでは、もともと学校がある。だから保護者や地域の方もあまり意見を言えない。しかも学校側も、なかなか弱い部分を表に出さなかった。でも、そうした姿勢ではこれから大変ではないかと思えます。

困っていることや、実際の様子をしっかりと見ていただいたうえで、学校ももちろんそれを克服するために様々な努力をしなければいけない。その一番が授業であると思っているのですが、保護者や地域の方も「何やっているの、先生」、「何やっているの、学校」ではなく、どうしていこうかということと一緒に考えていく、そのような仕組みづくりが全ての学校の中でもできていくと、学力はもちろんですが、不登校の問題などもより良くなっていくのではないかと思います。高野委員、いかがでしょうか。

高野委員 今、教育長がおっしゃった、学校はみんなで作るものというところ、私も全く同感です。誰かがつくったものに対して、ここをこうしてほしい、ああしてほしいという意見を持つことはとても大事で、それが実際にコミュニティ・スクールになって意見が積極的に取り入れられることによって、自分たちがつくっている学校だという気持ちになれば、地域の方々も学校を愛する気持ちがさらに強まってくると思います。

これは学校だけではなくて、子どもの生き方についてもそうだと思います。例えば生徒会でも、生徒会の役員だけが考えて学校を変えていくのではなくて、みんなが自分の学校、自分にかかわるものについて主体的に取り組むこと、それがとても大切だと思います。

この姿勢というものは、学校で授業を受けているときでも、先生たちが授業をしているということではなくて、自分が授業を聞いているということ意識し、主体的に自分の意見を発信する。また、友達の意見を聞いて、自分の意見が正しいのではないか、もしくは、そういう考え方もあったのかというように、主体的に臨んでいくことが、授業だけではなくて、子どもたちがこれからの人生を生きていく中で本当に大切なことだと思っています。

先ほど、青木委員から、今の大学生が社会参加に対してとても強い関心があるというお話がありましたが、やはり子どもたちには、学校だけではなく、社会の中で自分がどのように役立っているのかというような広い視野も持ってほしいと思います。

本日参加されている保護者の皆様の中には、学校の地域支援本部ですとか、色々な地域でのお仕事をされている方などもたくさんいらっしゃるのですが、そうしたお母さん、お父さんが地域のために一生懸命動いていらっしゃる姿、学校を良くしようとして動いていらっしゃる姿は、子どもたちにもきっと届いていると思います。

ですから、私たち大人が、子どもたちに学校を、地域を自分たちの手でより良いものにしていくという姿勢を見せることも、親の務めなのではないかと思っています。

青木委員 学校はつくっていくものということで、全くそのとおりだと思っておりまして、学校教育にかかわるものとして、学校をつくっていく方向性をどう見極めるかということの重要性に、とてもやりがいを感じています。

小学校は小学校、中学校は中学校で、人間形成が中心になると思いますが、実際に社会に出てから、人としてどのように生きるのかというところが一番重要なのではないかと思います。勉強に関しては、先ほど申し上げました興味・関心を高める教育というものがやはり重要になってくる。きちんと社会に出て、社会人として自立していける人間の形成、最終的にはそこが目標になるのではないかと思います。

今、大学でも親子面談というものをやっています。こうしたものが、どうしても必要になっています。大学生ですら必要なのです。

そのような時代になってきているということがありますので、ぜひ、ご家庭でも、それぞれのお子さんたちの動向、何を考えているのか、何をしようとしているのかを見極めていただいて、学校と連携をとりながら育てていく。

あるいは地域の皆さんもそうです。それをやっていくことで、一人一人の子どもたちを多くの目が見守っていける、育ててくれるというような気持ちに必ずありますので、地域と学校と家庭とが一体になって、学校をつくっていければ良いのではないかと思います。

松澤委員 コミュニティ・スクールというものをこれからやっていくうえで、地域の方、学校、保護者、そして子どもたちとともに、学校をつくっていくことは本

当に大切だと思います。

そして、私が教育委員になって最初に思ったのは、板橋区の全ての子どもたちに、教育を平等に受けさせてあげたいということなので、そうした理念のもとに、先ほど青木委員がおっしゃったように、本当に社会に出て胸を張って働ける、そして自分の仕事に誇りをもって最後まで続けていける、板橋区の子どもたちにはそのような子どもになってほしいといつも思っていますので、実現に向けて、様々なところから色々なご意見をいただきながら、今後もやっていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

教 育 長      ありがとうございます。

本日、この会が始まる前に授業を拝見させていただきました。中学校の授業は特に変わってきています。

繰り返し申し上げていることですが、先生が一方向的に話すような授業ではなく、子どもたちが関わって、学び合ったりしている授業がとても増えてきていると思うのですが、やはり学力を上げるためには、先ほどもお話に出てきたように、子どもたちの学びに向かう力というものを高める。そのためには、先生が興味・関心を高める授業力をきちんと持つことだと思うのですが、教育支援センターでは教員の授業力向上について、どのような施策をしているのかをご説明ください。

教育支援センター所長      教育支援センターは、平成27年度に板橋区立学校の教員の授業力向上という目的を中心にして設立されました。先生方の研修だけではなくて、相談といったものも行っているのですが、研修だけに限って申し上げますと、子どもたちに必要な力を付けるために、主体的、対話的で深い学び、そうした授業をしましうと言っているところでは、

そのためには、先生方自身が研修を受けるときにも、主体的、対話的で深い学びでなければ力が付かないと考えておきまして、研修のときには、ただ、講師の話聞くだけではなくて、参加した先生方が自分の考えを述べ、議論し、その考えを発信しながら、また講師の話聞くような研修のつくり方をしておきます。

さらに初任者等の授業力がまだ身に付いていない方々のためには、先輩方の良い授業を見るというようなことも行っております。

そのために、小学校ですと教育会、中学校ですと区中研、また今年から指定されている板橋区教科等指導専門官、指導教諭、このような方々の授業を見る機会も設定し、学び合うということも大事にしております。

それ以外にも、先生方が研修に来ていただくということは、その先生方の授業をほかの方に任せて来ているわけですから、研修に来た甲斐があったと思ってもらえるような研修にするために、例えば、ICT機器の活用であったり、小学校であれば、英語がこれから始まるので、英語の研修といったものを行っているところでは、

全ての研修が、参加された先生方にとって、来てよかった、授業力が高まったと思ってもらえるような、そしてまた、それを学校、授業で生かして子どもたち

の力を付けていきたいというようなものになるような研修づくりを心がけている  
ところです。

教 育 長     ありがとうございます。

本日ご欠席の上野委員からもご意見を事前に伺っておりますので、教育総務課  
長から代読させていただきます。

教育総務課長     それでは、代読させていただきます。

先ほど指導室長から説明がありました、非認知スキルの向上を規定する主な保  
護者の働きかけの部分についてですが、子どもに努力することの大切さを伝える、  
あるいはボランティア活動等に参加するよう子どもに促すということに加え、達  
成感を味わう等の体験を増やしていただきたいと思っております。

通常授業の中でも達成感を味わうことは可能です。または、言葉で指示するの  
ではなく、教師、保護者が率先して行う姿から学ぶことが教育の理想と考えてお  
ります。

以上でございます。

教 育 長     ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会を終了いたします。

ありがとうございました。

午前 11時 40分 閉会